

## 2. 風蓮湖周辺及び温根沼地区の概要

本地域は、北海道東部に位置し、北側で根室湾と、また、南東側で太平洋と接し、根釧台地と根室半島、海跡湖である風蓮湖や温根沼及びそれらに注ぐ中小の河川とその流域や湖の周辺に広がる低地から構成され、行政的には、根室市、浜中町、別海町にまたがる面積約 470km<sup>2</sup>の地域です(図 - 1)。

本地域の代表的な河川は、風蓮川、別当賀川があり、いずれも風蓮湖に注いでいます。これらの河川沿いの谷底平野や湖の周辺の低地は湿原となっており、春国岱(しゅんくにたい)とともに、この流域を特徴付ける景観を呈しています。

風蓮湖、走古丹(はしりこたん)、春国岱、温根沼は、1962(昭和 37)年「野付風蓮道立自然公園」に指定され、タンチョウの繁殖地として、またハクチョウやその他野鳥の渡来地として知られています。

さらに、風蓮湖は春国岱とともに 2005(平成 17)年 11 月に「ラムサール条約」の登録湿地として認定されています。

この地域の気候は、年間の平均気温が 5 ~ 7 度程度と非常に冷涼で、秋から冬にかけて晴天の日が多くなります。特に沿岸部では、夏季の暑い時期でも 20 度を超える日はあまり多くはありません。沿岸部では春から夏にかけて「海霧」が発生しやすく、霧のかかる日は平均で 100 日前後を数えます(北海道根室振興局 HP)。気候帯区分ではほぼ亜寒帯に属します。こうした気候特性により、標高 80m に満たない海岸台地上に、亜高山・高山性の植物相が見られます。

地域の人口は、根室市(31,209 人)、浜中町(6,735 人)、別海町(16,207 人)となっています(平成 21 年度 全国市町村要覧)。

主な産業は、根釧原野を開拓した牧草地を利用した酪農を中心とした農業、花咲港や落石港で水揚げされるカニ、サンマや沿岸で行われるコンブ漁などを中心とした水産業があります。



図 - 1 風蓮湖周辺及び温根沼地区の位置